



巻頭PHOTOレポート

医療連携を成功に導く方程式



北水会記念病院

(茨城県水戸市)

楽しく、迅速に、
提案を否定しない
OLS 活動が実を結ぶ

骨を強くするといわれる「納豆」で有名な茨城県水戸市。その住宅街にある北水会記念病院は、医療・介護・福祉の複合エリア「水高スクエア」内にある総合病院です。複数の高齢者施設を併設しており、人工関節の手術を中心とした整形外科領域に力を入れてきました。骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS）を始めたのは2017年。増え続ける骨粗鬆症に危機感を覚えた院長が、ある看護師に白羽の矢を立てたのが始まりです。（2024年9月取材、編集部）



水高スクエア



病院敷地内にあるベンチ。来訪者は自由に座ることができる。



Hospital Data

北水会記念病院

開院：1979年
所在地：茨城県水戸市東原3-2-1
病床数：128床（2024年9月現在）



向かって左から、OLSチーム初期メンバーの大高さん（外来看護師）、野上さん（理学療法士）、奥村さん（薬剤師）。この3名でスタートしたチームは、いまや12名に。

患者さんの回復に向けた強い思いを チームで共有

「当院のOLSチームは学生サークルみたいで、日々の活動が本当に楽しいんです」。

満面の笑みを見せる大高眞有美さんは外来看護師。北水会記念病院初の骨粗鬆症マネージャーでもあり、チーム発足の立役者です。

取材当日も院内電話をかけながら、「私が代わりに現場に行くからインタビューを受けに来て」と、シフト調整に余念がありません。

大高さんは続けます。「どこの病院もそうでしょうが、看護部をはじめスタッフは大変忙しい状況です。当院はそれでもOLS活動にメンバーを派遣してもらえます。各部署のスタッフには感謝しかありません」。

大高さんは、他院のスタッフから「院内の理解が難しく、OLS活動が負担になっている」と聞くこともあるそう。しかしこの北水会記念病院では、通常業務に加えてのOLS活動を続けています。

上手くやりくりするコツを聞くと、「チームのみんながそれぞれの部署で、互いを思いやりながらシフトを工夫しています。それは、患者さんの回復に向けた強い思いがあるからです」と答えてくれました。

現在、OLSチームのメンバーは12名。医局や看護部、薬剤部、リハビリ室、検査部など、院内のさまざまな部署に所属しています。多職種で行うOLS活動は、チームのモチベーションを維持するのが大変だとも聞きます。理学療法士の野上義明さんが、OLSチームの特徴について興味深い話をしてくれました。

「当院はチームの誰かがやりたいことがある場合、それがどうしたら実現できるか、みんなで考えていくんです。それはダメ、やらないほうがいいとは決して言いません。そして提案に対するアドバイスやフィードバックが丁寧でとても早いです」。